

トータル保険だより 夏号

●第181号 広報トータル保険だより
平成22年6月1日 (有)トータル保険
〒997-0853 鶴岡市小淀川色田 69-28
TEL 0235-25-1315 FAX 0235-25-1064

進藤の独り言

トータル保険に入社して早1年半が経ちました。保険の事など知らないできましたが、知れば知るほどその重さを感じています。機会がありましたら少し私の話も聞いてみて下さい。何かのヒントになるかも！



息子の退学に悩んだ日々

冷たい風が吹き抜ける校庭で、校舎に深く一礼した梨恵さん(41)は、あふれ出る涙を抑える事ができませんでした。息子の司君(15)の退学届を出したあの日の事は、今も鮮やかによみがえってきます。司君は、志望した高校に入学したものの、思い描いた学校生活とは違い、クラスメイトともなじめないまま不登校になりました。その間、梨恵さんは司君の気持ちに落ち着いて、前向きになる事を祈り続けました。しかし、朝も起きてこないわが子に対して、時に歯がゆい思いで「起きなさい！何してるの！」と、大声を出さずにいられない事もありまし

た。何とか司君の気持ちをくみ取ろうと思う梨恵さんでしたが、最後は司君と言い争いになって、「お母さんに僕の気持ちは分からん！」と言われ、打ちのめされた事もあり、「育て方に原因があったのではないか」と、自分を責めました。また、高校生の姿を見ては、「本当なら司も、今頃好きなサッカーでグラウンドを駆け回り、楽しく高校生活を過ごしていたのに」と思い、かわいそうでならなくなるのです。しばらくして、心が落ち着いてきた梨恵さんは、たとえ司君が捨て鉢な気持ちをぶつけてきても、「お母さんは、司がこれからどんな道を歩ませてもらうのか楽しみよ。人生に無駄事はないからね」と、明るく言え

るようになっていたのです。その後、司君は渋々ながらも通信制の高校に進みました。レポート提出とスクーリング(面接授業)という、自主性が重んじられる学習システムは、本人はもちろんな、家族にとっても根気の要るものでした。司君は「もうやめる」と何度言ったか分かりません。そうこうしながら3年生になったころ、信頼できる担任の先生と巡り会えた事や、いろいろな出会いと体験を重ねた事で、司君は大学への進学を希望するようになりました。それからの司君は、何事にも積極的に取り組み、学校推薦を受けて大学に合格したのです。卒業の日。式典を終えて教室に戻った司君たちに担任の先生は、「式で、『厳しい時代になるけれども頑張ってください』という励ましの言葉がありました。あなたがこれからは生きていく時代は、素晴らしい時代です。どうか、楽しみに生きていってください」と話されました。司君は、その言葉がとてもうれしかったと言います。通信制の高校には、司君のように一度は挫折を味わいながらも、卒業の日を迎えた生徒が多くいます。だからこそ、担任の先生は、そのように言ってくれたのだと思え、梨恵さんの胸を熱くしました。あの退学の日から5年。大学2年生になった司君は、元気に学生生活を送っています。

やる気のスイッチ 頑張らずに、やる気を出す方法

初詣にいつてパンパンと手をたたき、一生懸命願い事をする。「今年は英語をマスターできますように」そう祈ったときには、十分にやる気があったとしても、「英会話の勉強しよう。このテレビが終わったら」「やせよう！このケーキを食べたら」「明日は早いから早く寝よう。ビールを飲んでから」ほんの一瞬で目の前の誘惑に負けてしまう。たった「この一瞬」すら思い通りにならないのだから、人生を思い通りに動かすのは簡単じゃない。

でもあなたはその事実にあらためて気づいた。「自分の心との付き合い方」を理解するために大事なことは、まず「気づく」ことである。

自分にとって本当に有益な情報というのはい「え、そんなに簡単なことではないの?」「え、そんなこと昔から知っているけど」「え、何度も聞いたことあるよ」と言いたくなるような、シンプルで当たり前のことだ。

今まで日常にあつたものに対して、意識を変えて接してみよう。そこにやる気のスイッチがある。

